

令和4年度全国高校総体 審判員報告書

C 3 審判長

安福康夫

1. 採点上の打ち合わせ事項

(1) 競技の特性について

ア 採点競技の特性について

- ・ルールに則って順位付けをすること
- ・採点結果は新体操の方向性を指し示すものであること

イ 審判のあり方について

- ・審判員としてのモラルを遵守すること。
- ・監督・選手との接触は挨拶程度とすること。

(2) 2022年版採点規則について

ア 変更の概要について

- ・加点内容が変更になり、構成得点が重視されるように感じるが、新体操として美しい実施ができていないか、徒身体操がしっかりとできているかを問うルール変更であることを確認した。

イ 個人競技について

- ・加点項目の変更について確認を行った。
- ・連続した投げ受けと次々に投げる技についての採用の仕方について、最大0.1点の加点であるが、両方実施した場合に0.2になるという誤った解釈があったため、改めて確認した。

ウ 団体競技について

- ・加点項目の変更について確認を行った。

2. 採点上起こった事項とその処理

2022年の変更で予備手具は女子と同様にフロアの両サイドに置くことになった。出場者には監督会議資料にて、主催者側が準備する旨を通達していたが、周知不足があったため、競技部長及び高体連技術部長と相談し、昨年までと同様に選手各々が好きな場所に置くことを認めることとなった。今後同様の処置は考えていないので注意していただきたい。

3. その他特記事項・意見・感想等

コロナ禍の大会ということもあり、選手ならびにすべての大会関係者の努力にこたえられるよう、審判員一同、心を込めて採点をさせていただきました。

個人競技は新ルールに合わせて、かなり難しい内容に取り組んでいる選手も多く、大変高いレベルであった。ただ技数が増えたため、多くの選手が、基本的な徒手運動との組み合わせがうまくいっていないように思えた。その点で上位に入った選手は、徒手運動と手具の投げ受けや転回系が上手く組み合わせており、実施面でも見事にこなしていた。

一方で加点にとらわれず、実力に応じた演技内容を組み合わせている選手もおり、結果として構成点よりも実施点が上回るということもあった。この策をとったほうが選手にとって無理がなく、得点も上がるのではないかとも思われる。

団体競技では、コロナ禍で練習時間が十分に取れなかったのか、全体的にミスが多く例年と比べると実施力に欠けるチームが多く、完璧なまでの一体感や極限までの動きを感じさせるチームはほとんど見当たらなかった。それでも上位に入ったチームは、きっちりまとめで上げられており、その努力を想像すると頭が下がる思いである。

また、加点制の導入により、団体同時性が高いと感じる演技が増えたが、そこには選手の技術力が問われるため、6人全員の技術の底上げが必要になっているようである。選手層の厚いチームはよいが、そうでないチームには厳しい現状がある。

最後になりましたが通常でも大変な運営に加えて、きめ細やかな感染防止対策に取り組んでいただいた役員の皆様、実行委員会や補助役員の方々のご尽力により素晴らしい大会が無事終了できたことを心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

1. 採点上打ち合わせた事項

【個人】

- ・新ルールで増えた加点部分について採用基準など共通認識を持った。
- ・新ルールでは加点部分が 1.0 に増加しており、加点によって構成点に少なからず影響がでるが、演技全体の A の部分の減点項目は変化しておらず、演技全体の組み立て、流れが良い構成を評価することに変わりはないことを確認した。
- ・構成上、実施に影響される項目を確認し、実施減点に引きずられ過ぎず構成面から適切な評価をもとに序列付けを行うこと。

【団体】

- ・新ルールにおいて導入された加点要素の採用基準について確認した。実施ミスがあった場合の扱いについて、大きく乱れた場合を除き実施減点で処理してもらい、構成上は加点を採用することを確認した。
- ・新ルールでは転回系の定義変更があったので、転回系のスタートについて、転回系の途切れがないかを適切に判断していくこと。
- ・徒手系・展開系ともに団体競技の見せ所である同時性を組み込んでいるチームを評価していくこと。
- ・構成としての自然性を欠いた動きはあまり高評価とせず、動きを止めたり途切れたりする構成より、移動などの運動量が豊富で徒手的な内容が自然とつながっている構成を評価する。
- ・転回系の構成内容の多様性を見極め、同じ転回系に偏っているチームは序列付けの際に気をつけること。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・団体において、転回系のミスから転回系が途切れ、転回系の数が多くなったチームがあった。新ルールにおいては接点運動（側転など）が徒手系に分類されるようになったので、転回系が途切れたと判断し、減点処理を行った。
- ・転回系の構成については、全員が転回系を行うことが求められているので、助走をしても側転などの接点運動につなげた場合は、同時スタートと 2 段スタートの要素としては採用できないので、減点処理を行った。

3. その他特記事項・意見・感想等

- ・限定的であったが、3年ぶりの有観客開催ということで会場にも活気があり、選手達も生き生きと演技して大会として盛り上がりを感じた。コロナ禍において練習環境に制限が多く、大会直前まで出場できるかギリギリの判断を迫られたチームもあったと聞いております。その中で演技を仕上げてきた監督はじめチーム関係者に敬意を表します。コロナ禍における大会運営で気を遣うところが多かった大会でしたが、地元実行委員会・補助役員・生徒のご協力のおかげで大過なく終えられましたことを感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

1 審判事前打ち合わせた事項

(1) 2022.2月に改訂されたルールの確認

- ・動きの幅が最大・最小とできているか確認すること。
- ・膝の踏み込みが深くできているか、上半身だけでなく下半身もしっかり動いているか確認すること。
- ・運動の間やアクセントによる張りや活気がある運動になっているか確認すること。

(2) 「動きの量及び運動の本質」がしっかりとできているか見極め判断すること。

(3) 選手・監督が目指していくべき方向性を示すこと。

(4) 審判員がその責任において点数に説明が出来るようにきちんとチェックすること。

(5) 審判技術の向上を図ると共に、減点する事が中心となるが、良い所や全体の演技を見て点数を出すこと。

2 採点上起こった事項とその処理

(1) 個人競技において

- ア 加点を取ろうとするため実施でのミスやコロナ禍の練習不足の為か不完全な演技多くあり採点に苦慮しました。
- イ 手具を生かした運動や手具と運動の一体感といった調和のある運動がほとんどの選手ができていなかった。
- ウ 運動の始まりである、緊張と弛緩、しなやかさとスピードといった部分の運動がほとんどで来ていない為、運動に硬さがあり、緊張だけが目立つ運動をする選手が多かった。
- エ 難度を無理やり取ろうとして演技全体に深さ・大きさ・スピードそして柔軟性に欠ける選手が多かった。
- オ 「技」ばかりに捉われ基礎的運動部分の多様性に欠けている傾向にある。

(3) 団体競技において

- ア どの学校も大変苦勞されて作品を創り上げて大会に臨んできていただき、審判団としても緊張感を持って審判を行った。
- イ コロナ感染症の影響で5名ないし4名での出場校が多くあり、また、練習不足も重なり不完全な演技が多く採点に苦慮しました。
- ウ 全体的に我々男子新体操競技が目指していくべき方向性で作品が作られていた。(団体同時性やルールに乗った演技)
- エ 徒手運動の大切さ(可動域・移動幅等)とその運動の創り上げ方がしっかりできている団体とそうではない団体によって大きく点数に差が開いた。
- オ 団体競技において「静止」してよいのは、倒立・柔軟・バランスであり、それ以外(特に転回運動の前後)での静止が多くみられた。逆に上記の「静止」しなければならない部分において不十分さを感じた。

3 その他特記事項・意見・感想

- ・今大会を振り返り、各審判員が緊張感の中で自信を持ってジャッジにあたっていたいただきましたが、運動の質の良し悪しについて統一を取るのには難しいと感じました。
- ・団体競技においては、上位層と下位層の差が大きく、下位層の点数について教育的配慮が必要な部分もあると感じました。(順位付けをする)
- ・構成得点と実施得点が逆転する演技が出てきていたので、ルールの解釈や技だけでなく実施の考え方が少しずつ選手、監督の皆さんに理解してもらっていると感じました。

コロナ禍の今大会において、大きな怪我もなく成功裡に終わったことは、大会関係者の皆様の懸命なご尽力と微細にわたる目配りや気配りがあったおかげで思い出に残る素晴らしい大会にできたのだと大変感謝しております。

皆様、本当にありがとうございました。